

会議名	第2回 池田市環境審議会(令和3年度第2回)議事録概要		
会場	WEB	月日	令和3年9月2日(木)
出席委員	◎熊谷 樹一郎、○庄田佳保里、上岡典子、藤田祥子、田中透、岡本文介、谷田成司、笹部雄作、田中拓弥、元平修治 欠席 柏葉三千子 (会長:◎ 副会長:○)		
事務局	市	池田市市民活力部 高木部長 " 環境政策課 矢野課長、杉本副主幹、椿主事、荒木主事	
	調査担当機関	(株)総合環境計画	傍聴者 なし
内容及び記録	<p>■議題1 環境目標像の設定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民に対して、環境基本計画の中のこのような取り組みをしているといったPRができていない。ボランティア団体の方と協力するといったかたちではなく、市民がこれがいいのではないか、やってみようというようなことを考えていかないと、こちらでいくら何をしても伝わらない。市民が、これは面白いからやってみようということで、それが自動的に環境問題につながり、環境改善になるような施策、仕組みがあるほうがいいのではないか。そのようなところから話を持っていくと、市民も強制されずに、自動的に環境に優しい計画ができるようになるのではないか。(田中透委員) ・行動を変えていってもらうためにどのようなアプローチが必要かという点は、行動計画が担う部分になるのだと考えるが、その意識は非常に重要なポイントである。(庄田副会長) ・エネルギーが薪炭から石油に代わり、森林が放置されるようになった。五月山の頂上の木々、高度成長期以降に植えられた街路樹、公園の樹木が大径木化してきて、荒れて、枯れる、折れるなどするようになってきている。(笹部委員) ・社叢林、寺社林も、今までとにかく緑を増やそうとしてきたが、防災とも合わさり、緑と共存していく池田市を考える上では、緑被率等で増やそうといった発想から転換する必要がある。(笹部委員) ・このような状況から、緑の防災の面と緑被率を見直す必要があるのではないか。(笹部委員) ・食品ロス削減計画も「循環型都市の構築」の中に入れていくべきではないか。(藤田委員) ・『人にやさしいまちづくり』の中に防災的観点を入れ込む予定とのことだが、そこに入れるのがいいのか、或いは、地球温暖化防止の中に入れていくのがいいのかという点もこの場で議論できればよい。(藤田委員) ・『人にやさしいまちづくり』の中に風土という項目がある。池田市の他の審議会等に出席して、日本遺産の話があったときに、池田で特徴的なのは街道筋がある点だと指摘されていた。人が交わる道はまちづくりに大事な観点であり、『川と緑と街道が育む』としてはどうか。街道筋に、例えば緑を取り込んでいけるようなかたちも考えていくのもよいのではないか。(藤田委員) ・上流側との連携、北摂山地としての横の連携など、もう少し広域連携を視野に置いても良いのではないか。(上岡委員) <p>■議題2 環境指標の設定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五月山が生物多様性の主な現場となってくると考えているが、非常に荒れてきており、鹿害も出ている。また、森が極相林に至り、暗い森に変わりつつある。暗い森の中では若い植物が育たないため、そこに鹿害が起こると一気に生物多様性が低下する。五月山はそのような段階にある。興味深いことに、まちなかの緑の中で、街路樹等を取り囲んだ都市の中での新たな生物の循環、生物多様性が出てきている。この辺りで少し視点を変えていく必要が出てきているように感じる。(笹部委員) ・緑視率の指標について、改変、もしくは廃止も構わないが、せっかく今までされてきたことをどのように転換するか考える必要がある。環境学習会も一つの方法だが、例えば子どもの緑の満足度のようなところで、満足度調査に展開していてもいいのではないか。ただ、今までされてきたことの反映にはならないため、何かそれよりもよい方法はないのか、今までされてきたことを生かす指標として何かあればよいと考える。(上岡委員) ・緑視率が減ったとしても、その木陰がどれほど暑い街を覆っているかといった点が評価されると分かりやすいのではないか。(笹部委員) ・街の中にある樹木、街路樹の太くなったもの等は安全、防災のために当然ながら伐採する必要があるが、上手に資源として循環させ、家具や柱にして置いておけば、それはCO2の削減に直結する。何か池田市の中でも単純に伐採して燃やすのではなく、何かまちなかで使えるような仕組みがあると、市民にも目に見えるかたちでアピールできるのではないか。(笹部委員) ・目標値の設定にあたっては、環境像を目指すために達成すべき値があると思う。できないから下げるとのは違うのではないか。(谷田委員) 		

